軽便は、時代を越えて今、再びよみがえる

軽便鉄道は、大勢の人たちの心の中に、今も走り続けている。そんな中、軽便の良さを広めよう、守っていこうと活動が展開されている。軽便鉄道研究家の阿形昭さんと高松まちづくりの会の沖二三男会長に活動にかける思いを聞いた。

▲設置作業をする
高松まちづくりの会会員

軽便はいつの時代も人と人とをつなぐ

教師であり、軽便鉄道研究家でもある阿形昭さん。社会科の授業で軽便鉄道を取り上げたことが、軽便の世界にのめり込むきっかけだったと言います。

「子どもたちは、当時の写真や資料を見て『御前崎に鉄道が通っていたんだね。すごいじゃん。乗ってみたかったな』などと興味津々になりましたよ。私自身、利用者の貴重な話を聞けただけではなく、軽便に対する熱い思いも感じとれ、みるみる軽便の持つ魅力に惹かれていきました。軽便を通して友人や知り合いも随分増えましたよ」。

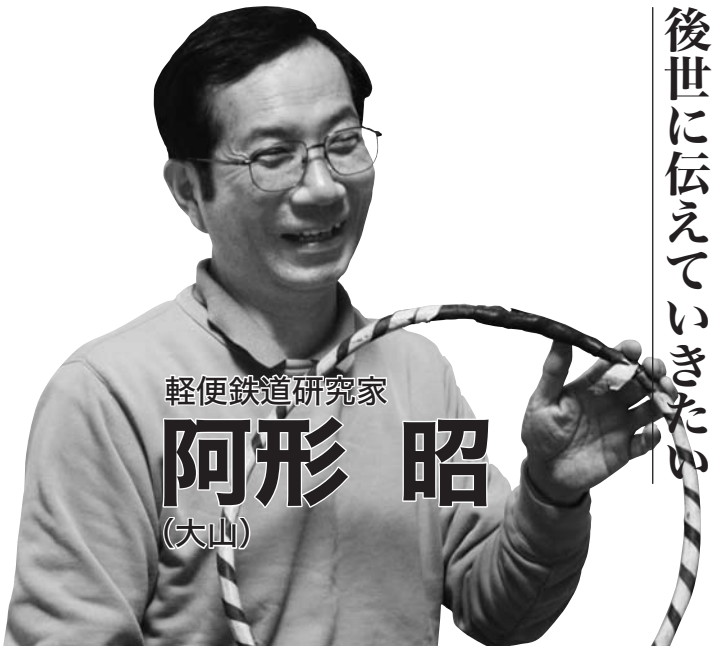
阿形さんは、大勢の人に軽便の魅力に触れてほしい、このまちに軽便が走っていたことを知ってほしいと、今年8月に市立図書館アスパルで展示会を開催。1500人を超える来場者がありました。

「私が会場にいると、50歳代の男性とその父親と思われる年配の男性が写真を見ながら会話をしていました。近づきそっと耳を傾けると、そのお年寄りが、当時のことを得意げに話していたのです。軽便を通して親子に会話が生まれていたんですね。軽便の車内も、家族や友人同士の会話がありにぎやかでした。軽便はいつの時代も人と人とをつないでいるんです。人と人の輪を広げるという魅力を持つ軽便を、今後も伝えていこうと思います」。阿形さんはタブレットを持ちながらそう話しました。

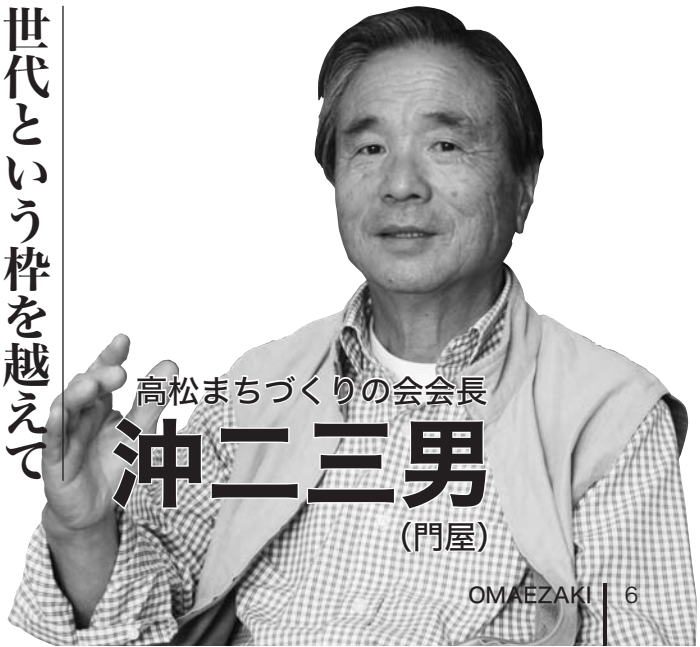
地域の宝はオンリーワンの宝 次世代へ残そう

国道150号沿いに10月2日、高松まちづくりの会会員の手によって塩原新田駅と合戸駅の駅名表示板が設置されました。同会では、昨年度から地域の名所・旧跡に案内板を取り付ける活動をしています。軽便鉄道の駅名表示板もその一つ。沖会長は「若い世代の人は、この地域に鉄道が通っていたことを知らないでしょうね。地域の歴史というのは、このまちにしかない宝物です。子どもをはじめ、地域の皆さんもその宝に気付き、育み、後世に伝えていってほしいです。地域の結びつきやコミュニケーションも自然と図られると思います」と期待を込めました。

世代という枠を越えて
人と人とを結びつける軽便
そんな軽便を
後世に伝えていきたい



軽便鉄道研究家
阿形　昭
（大山）



高松まちづくりの会会長
沖二三男
（門屋）